

都弱視研

東京都弱視教育研究会
江戸川区松江5-5-1
発行人 瀬戸 完 一
印刷 依田印刷(株)
第55巻 1号発行 R7.9.8

都弱視研の
ホームページは
こちらから
<https://tojyakushi.moo.jp/>



令和7年度の東京都弱視教育研究会の活動

東京都弱視教育研究会 会 長 瀬戸 完 一
江戸川区立松江第一中学校 校 長



東京都弱視教育研究会(以下「都弱視研」)は、都立盲学校4校(文京、葛飾、八王子、久我山青光学園)、筑波大学附属視覚特別支援学校、そして区市立小・中学校の弱視通級指導学級12校(小学校9校、中学校3校)の計17校の相互の連携を図るとともに、広く弱視教育の研究と普及を推進することを目的として会を運営しています。

都弱視研では令和7年度の研究主題を「弱視児童・生徒の自立活動に関する指導内容・方法の研究」とし、副主題は「目と手の協応性を高める指導の在り方」と設定しました。研究の主な内容は①弱視児童・生徒の自立活動に関する指導内容・方法の研究②発達段階に応じた自己理解、障害受容の指導に関する研究授業③弱視に関する医学的理解④弱視通級指導学級および盲学校等における連携等とし、年間12回の研究活動を展開していきます。

今年度も東京都教育委員会や区市町村教育委員会、東京都内全ての学校と連携・協力を図りながら、弱視教育の研究と普及に努めて参ります。本研究会に対する関係諸機関の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

【令和7年度 東京都弱視教育研究会 役員一覧】

役職	氏名	所属校	役職	氏名	所属校
会 長	瀬戸 完一	江戸川区立松江第一中学校(長)	監 査	加藤 憲司	足立区立足立小学校 (長)
副 会 長	工藤 洋巳	葛飾区立住吉小学校 (長)	監 査	平田 鐘明	江戸川区立小岩小学校(長)
副 会 長	竹内 大吾	都立葛飾盲学校 (長)	事務局長	轡田 佳子	江戸川区立松江第一中学校
			会 計	北村 理紗	葛飾区立住吉小学校

【令和7年度 東京都弱視教育研究会 事業計画】

月	項 目 (会 場)
4	第1回研究全体会…総会議案検討・都要望区市町村要望検討・ブロック別研究会 研究総会…今年度事業計画・記念講演 講師：淑徳大学 総合福祉学部 教授 青木隆一先生
5	第2回研究全体会…資料提供(足立区立足立小学校)・専門性向上研修・分科会別研究会
6	第3回研究全体会…ブロック別研究会(小中)・都要望区市町村要望提案・分科会別研究会
7	第4回研究全体会…授業研究(葛飾区立住吉小学校) 講師：帝京平成大学 人文社会学部 教授 田中良広先生・第1回校長会 第5回研究全体会…専門性向上研修・見学会(日本点字図書館・ふれる博物館) ※東京都教育委員会との意見交換会
8	※千葉県教育委員会主催の教員研修にて実践紹介 ※通級指導学級三者連合協議会(都難言協・都情研・都弱視研)
9	第6回研究全体会…ブロック別研究会(東西)・分科会別研究会・会報1号発行
10	第7回研究全体会…資料提供(葛飾区立立石中学校)・専門性向上研修 ※日本弱視教育研究会 理事会(オンライン)
11	第8回研究全体会…授業研究(新島村立新島小学校) 講師：帝京平成大学 人文社会学部 教授 田中良広先生・第2回校長会 ※うえのZOOスクール(上野動物園)
12	第9回研究全体会…講演会 講師：愛知教育大学 准教授 相羽大輔先生 ※第66回弱視教育研究会全国大会(横浜大会)実践紹介
1	第10回研究全体会…授業公開(都立葛飾盲学校)
2	第11回研究全体会…年度末評価
3	第12回研究全体会…新年度事業計画、組織、研究テーマ・研究紀要発行・会報2号発行

令和7年度 研究総会 記念講演 (4月21日)

「弱視教育の基本の「キ」」

講師：淑徳大学 総合福祉学部 教育福祉学科 教授 青 木 隆 一 先生

1 弱視教育とは

弱視児の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、弱視児一人一人の教育的ニーズを把握し、その見ようとする意欲、保有視覚を活用する力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行います。つまり、視覚による学習が可能であるけれども、文字の拡大や弱視レンズの使用など教育上の配慮を必要とする程度の視覚障害児に対する教育を指します。

また、視力以外の視機能障害（視野、光覚、羞明等）のある児童への支援が必要になる場合もあります。

2 弱視とロービジョンとの違い

①教育的弱視：視覚障害はあるものの、学校の学びの場において、主に視覚を用いた学習が可能な状態。

②社会的弱視：視覚障害はあっても、主に眼からの情報を使って生活できる状態。

③医学的弱視：眼球に障害の原因となる疾患がなく、視力低下の原因が視覚に関係する脳の発達によると考えられる状態。

以上の弱視の混同を避けるために①と②をロービジョンということが多いです。

3 弱視の特徴と見え方

視力のみでも個人差は大きいですが、同程度の視力でも、屈折異常の有無やまぶしさの程度、視野の広さや中心暗転の有無等が、個人差を相乗的に大きくしています。

個々の弱視児がどう見えているのかを理解し教育に生かすために、以下の見え方のシミュレーションは参考になります。

○見え方紹介アプリ (日本弱視者ネットワーク提供) iPhone・iPad用android端末用

○VISIONGRAM「視覚障害を可視化する」

<https://visiongram-project.com/>

何より教室での様子をよく観察して、その子見え方を想像し判断していくことが弱視教育者には大切なことです。

4 もの言わぬ弱視

日常の学校生活で、あるいは授業の中で、見えなくても見えづらくても特に訴えることもせず、その見えづらさを気付いてもらえない子どもたちの状況のことを指します。

〈主な四つの理由〉

- ①見える仲間として友だちと接したい。
- ②見えにくさを理解してもらえないというもどかしさと諦めの境地。
- ③見えにくさを伝える表現力が不十分。
- ④本人の見えにくさに関する認識不足。

言いたくても言えない、伝えることが難しい弱視児と保護者の心情を受け止め、寄り添うことが弱視教育のスタートです。

5 弱視教育の基本的対応

(1)外的条件整備：視覚による明確な認知

- ・網膜像の拡大
- ・単純化とノイズの除去
- ・色彩への配慮
- ・照明のコントロール
- ・疲労しない学習環境の整備
- ・適切な学用品の選定
- ・教具の工夫

(2)内的条件整備：視覚認知能力を高める

- ①見えても見えずの段階
- ②見る能力相応に見える段階
- ③見えないものまで見るができる段階

6 まとめ

弱視は希少障害ですが、実際に見えにくい子どもたちが学校に通ってきています。

他の子どもと同じように教科の目標を達成し、教科の内容を習得できるようにすることが、私たちの仕事です。



(記録 足立小学校 蒔谷)

令和7年度 授業研究 葛飾区立住吉小学校（7月7日）

「弱視児童・生徒の自立活動に関する 指導内容・方法の研究」

— 目と手の協応性を高める指導の在り方 —

講師：帝京平成大学 人文社会学部 児童学科 教授 田 中 良 広 先生

1 研究授業

対象生徒 第2学年 1名

授業者 長 央 主任教諭

題材名 「カッターナイフをつかって、
線にそって切ろう」

2 授業者自評

- ・児童の保有視覚を十分活用できる授業を意識し、前もって指導するのではなく児童と一緒に考える授業をつくりたいという思いが根底にあります。作業時には、「どちらの方が見やすいですか」と児童に質問して、児童にとって見えやすい線の太さや使いやすいカッターなどを選択しながら授業を進めました。
- ・本時の授業では、児童が形を切り抜く途中でどこから切り始めたか分からなくなってしまったため、始点にマークを付けるという工夫ができたと思いました。

3 質疑応答・協議

- ・始点と終点は先生と児童で確認していましたか。→今回は行っていません。
- ・直線の内側と外側、どちら側を切るように指示していますか。→内側・外側という指示を出したことはなく、線を中心を切るように教えています。
- ・「カッターの刃を紙から外さない」という指導と、白黒反転した紙を用意したことが良かったです。ジグザグに切るときに線からずれてしまったように見えたので、まずは鈍角を切る指導から始めても良いのではないのでしょうか。また、左手の位置と紙の固定についてはもう少し配慮が必要だと思います。

4 指導・助言

- ・指導案は児童観、児童の特性、環境設定等が詳細に書かれていて、非常に良いものでした。実際の授業も、安全確保を最優先させたとても丁寧な授業でした。ただ、手袋をはめて作業を行うことが弱視

の児童にとって良いのかどうかという点については疑問があります。手袋をはめていることで左手が疎かになり、児童本人ではなく先生が紙を固定している様子がありました。自分でおさえて切ることによって、身をもってカッターの使い方を体験させましょう。この時、刃が倒れていないかどうか「見ることで確かめる」という方法は意味を成さないかもしれません。何度も使うことによって、「刃がしっかりと立っている」という感覚で判断できるようになるからです。弱視の子は圧倒的に練習する時間が足りません。生活上でも学習上でも児童が繰り返し練習をして、その道具の使用に慣れることが先決です。また、目と手の協応動作に関わる技能は、見え方や手の使い方等、その子に応じた自分なりのやり方を見つけて覚えることが大切です。

- ・盲学校に関わる教員でも、「弱視は少し見えにくい」という認識で子供を一括りで捉えてしまいがちです。「100人の弱視児に100通りの見え方」と言われるように、一人一人子どもの見え方は違うということを教員側が理解しなければなりません。そのためには、まず一人一人の眼疾患を確認し、どのような見づらさがあるのか、そのためにはどのような環境設定をおこなえば良いのかを明確にしておくことです。これにより児童生徒の実態に合わせた評価規準をつくることにも繋がり、より高い目標を目指すことができるようになります。



（記録 文京盲学校 吉野）

見 学 会

7月23日、「日本点字図書館」「ふれる博物館」にて見学会が行われました。

○日本点字図書館

見えない人の「読めるしあわせ」を叶えるために点字図書館は創立されました。見えない・見えにくい方々の安全で文化的な暮らしのために、図書館サービスやメディア製作、視覚障害に関する活字資料の収集と公開、生活訓練の相談、用具の販売を行っています。

今回は、バックヤードを見せていただきました。空調管理の整った地下の可動式書庫一杯に並ぶ点字図書。点字印刷の図書のほか、点字器やタイプライターで点訳された世界に1点しかない貴重な図書も大切に保管されていました。テーマパークの触地図など多岐にわたって取り揃えられ、全国から多くの問い合わせが絶えないそうです。

○日本点字図書館附属

池田輝子記念 ふれる博物館

マンションの一角にあるこの博物館は、点字や音声だけでは伝えきれない触覚情報を提供し、視覚障害者の教養を高め、視覚障害福祉に寄与しています。

模型や人形の他、3Dプリンタや手作業で立体化したアイテムが取り揃えられ、「ふれて知る愉しみ」を味わうことができました。

視覚障害者にとっての百聞は一見に如かずは「百聞は一触に如かず」

ふれることで聞くだけでは分からない豊かな情報を得ることができました。



(中村西小学校 照屋)

アンテナ No. 78

練馬区立開進第三中学校

都内で3校しかない中学校弱視通級指導学級の内の1校が本校です。昭和50年に開設、3年間の休級を経て、今年度4月より再度開級しました。生徒は、「自分のことを知ろう」「自分に合った方法を探そう」「将来を意識して、主体的に考え行動しよう」を目標に、自分と向き合いながら頑張っています。授業や将来自立した時を見据えて、調理や裁縫などの実習も行っています。中学卒業後も自分で工夫し、相談したり合理的配慮を依頼したりして「学びやすい環境」「生活しやすい環境」「楽しい環境」をつくる力、社会で生き生きと自分らしく歩んでいける力を育んでいます。



(開進第三中学校 熱海)

視覚教育情報コーナー

「視覚特別支援学校（盲学校）のグラウンド」

筑波大学附属視覚特別支援学校では、グラウンドの老朽化に伴い、昨年度（令和7年1月）から改修工事が始まりました。そして、今年度4月に、ロングパイル人工芝のグラウンドが完成しました。

人工芝の鮮やかな緑色、ふかふかの手触りが好評で、天気が良いと、休み時間に日向ぼっこをする児童も見られます。今回は、新しくなった本校のグラウンドを紹介します。

まず、基本となるトラック（白線）の他に、ブラインドスポーツであるブラインドサッカーコート（青線）やフロアバレーコート（白線）、直線走のライン（黄破線）が引かれ、見やすい配色やコントラストに考慮されています。

また、ラインだけではなく、杭につながった紐を持ちながら走ったり歩いたりする円周走ができるように、杭を入れる支柱穴が距離に応じてあります。さらには、音を頼りに活動できるように、小型の無線スピーカーが設置できる穴を2ヶ所作りました。熱を蓄積しにくいカラーゴムチップを採用することで、とても使いやすく、より安全な施設となりました。

体育の授業や部活動など、新しくなったグラウンドで、保有する感覚を活かしながらたくさん体を動かし、健やかに生活する力を育んでいます。



(筑波大学附属視覚特別支援学校 佐東)